

2011年3月4日

国立がん研究センターで実施している『がん相談対話外来』を
利用した患者の利用後の状況について

国立がん研究センター理事長 嘉山孝正
企画戦略室 加藤雅志

はじめに

国立がん研究センターでは、がん難民を解消するための取り組みの一環として、「がん相談対話外来」を平成22年7月12日から開設した。本外来は、がん患者の方々の目線にて、そのおかれている状況の中で受けることができる最良の医療について、患者や家族の方々と対話をしながら考えていくことを目的としたものである。その内容や実施体制については、これまでのがん対策推進協議会においても報告してきたとおりである（第14回、第15回がん対策推進協議会）。

今回は、「がん相談対話外来」を利用した患者の方々が、利用後にどのような状況にあるかご紹介したい。

※「がん相談対話外来」とは

医師と看護師が、国立がん研究センター以外の医療機関を受診している患者を対象に、患者や家族と30分程度の時間をかけて相談・対話を行いながら、診断や今後の治療についての説明をしていく外来である。医師からの説明の後、医師に聞けなかった悩みや分かりにくい説明が無かったか、続いて看護師だけとの面接を通じて確認し、再び医師も同席して、患者の悩みや相談に応えられるよう説明を行うものである。必要に応じて、がん専門相談員が同席したり、精神腫瘍医に紹介を行う体制が整備されている。

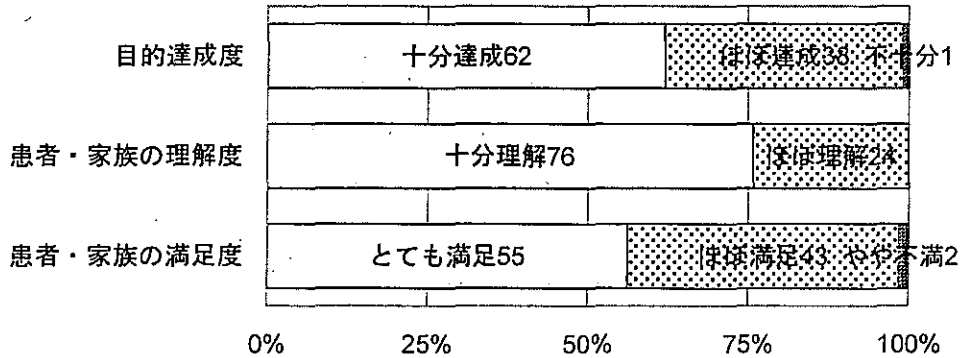
このような体制により、患者や家族の方々が、医師、看護師、がん専門相談員、精神腫瘍医とも相談を行いながら、がんの診断や治療について十分に話し合い、がん患者や家族の方々が納得した選択ができるよう支援している。

「がん相談対話外来」の利用状況

本外来を開始した平成22年7月12日から平成22年12月28日までの利用者数は757人であり、毎月118-138人の利用があった（別紙1）。また、本外来を利用した患者・家族の方々の利用後のアンケートの結果、利用者の感想として、ほぼ全ての方が「目的を果たすことができた」と考えていた。全ての方が「医師の説明が理解できた」と回答しており、ほぼ

全ての方が満足していた(別紙2)。

図1. 利用者の感想 (%) 7/12-12/28

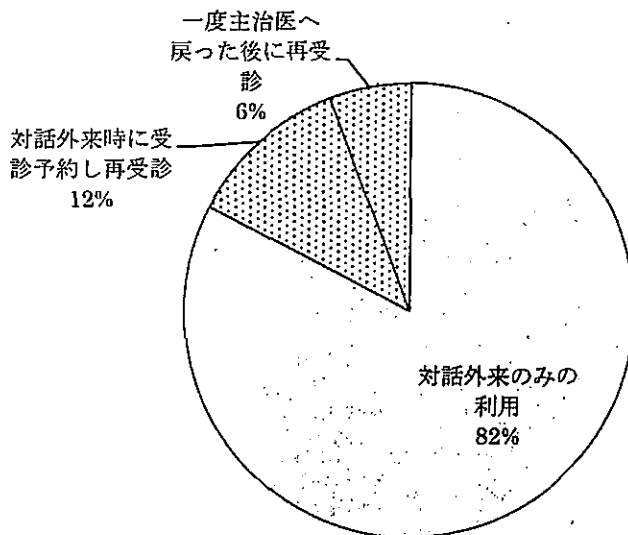


「がん相談対話外来」利用後の国立がん研究センターへの再受診の状況

本外来の利用者 757 人のうち、国立がん研究センターでの診断や治療の実施を目的に、再度、国立がん研究センターを受診した方は、合計 133 人 (17.6%) であった。

国立がん研究センターに再受診した 133 人のうち、「がん相談対話外来」利用時に、主治医に戻らず、継続的に国立がん研究センターで診断・治療をしていくことが決まった者は 88 人 (11.6%) であった。一方、45 人 (5.9%) は主治医に戻った後、時間を空けてから国立がん研究センターを受診した者であった。つまり、「がん相談対話外来」を利用した後、669 人 (88.4%) は少なくとも一度は主治医に戻っていた(別紙3)。

図2. 対話外来利用後の再診の有無 (%)

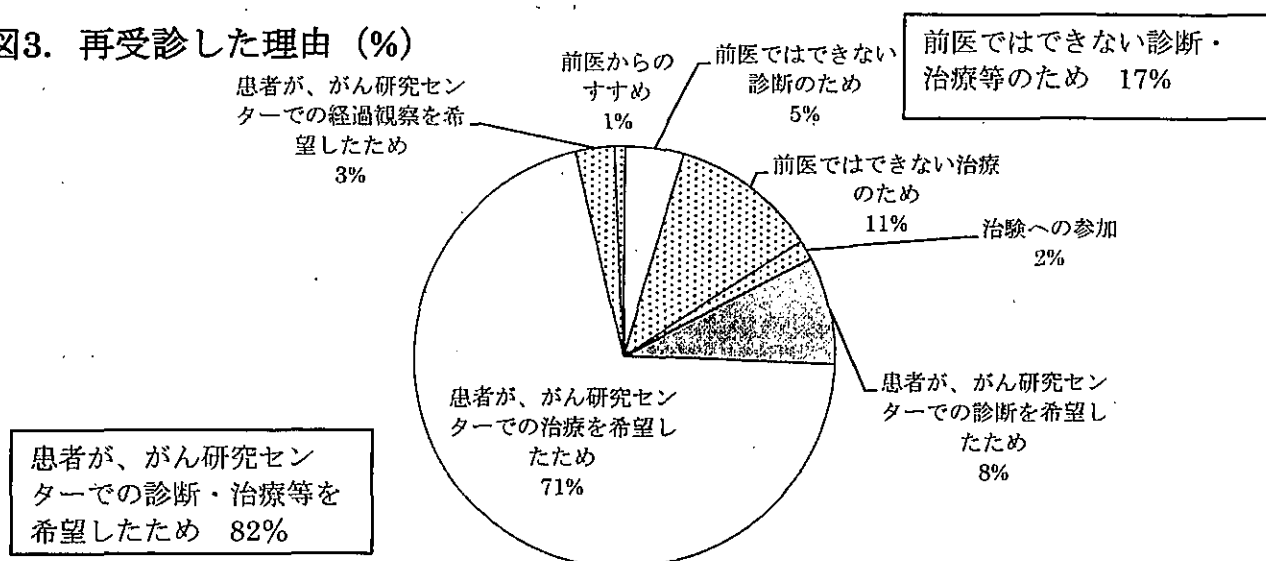


国立がん研究センター再受診した患者の再受診の理由

国立がん研究センターに再受診した133人のうち、「前医ではできない診断・治療（治験を含む）」を理由に再受診した者は23人（17.3%）であった。うち、診断6人（4.5%）、治療15人（11.3%）、治験2人（1.5%）であった。「がん相談対話外来」を利用した全757人からみると3.0%であった。具体的には、機能を温存する外科療法や、前施設では専門家がいなかったため実施できない化学療法などであった。

一方、「前医でもできることであるが、患者の希望での診断・治療・経過観察」を理由に再受診した者は109人（82.0%）であった。うち、診断11人（8.3%）、治療94人（70.7%）、経過観察4人（3.0%）であった。その理由として、「前医で治療を受けたくない」といったことを挙げる者もあり、医療者と患者とのコミュニケーション不足が伺える例もあった（別紙4）。

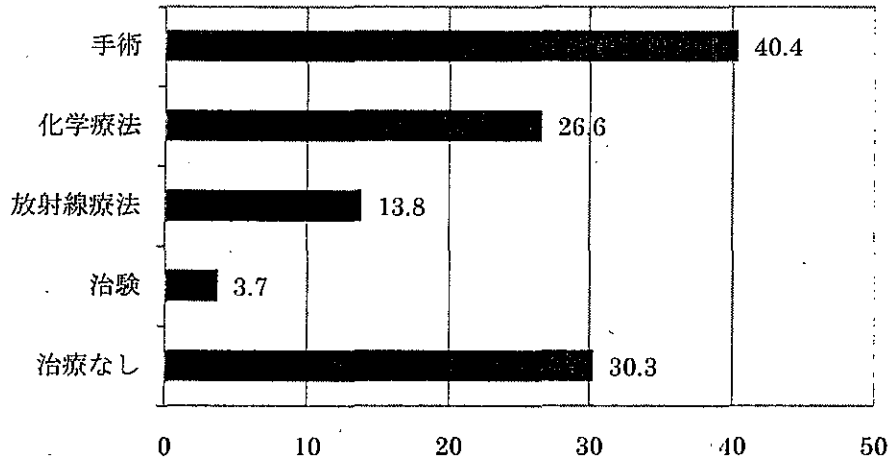
図3. 再受診した理由（%）



国立がん研究センターでの治療を希望した患者が受けた治療内容

「がん相談対話外来」を利用後に、国立がん研究センターでの治療を希望して再診した患者109人のうち、手術を受けた者44人（40.4%）、化学療法を受けた者29人（26.6%）、放射線療法を受けた者15人（13.8%）、治験に参加した者4人（3.7%）であった（複数回答可）。一方、精査の結果、治療の適応が無いなどを理由に、最終的に当センターで治療を受けなかった者が30.3%あった（別紙4）。

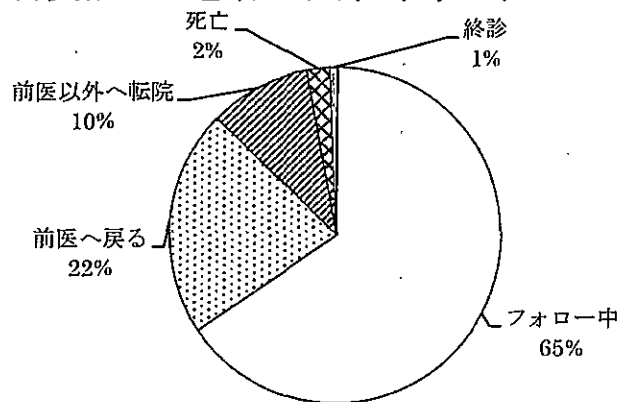
図4. 治療を希望した再受診者の当センターでの治療内容：複数回答可
(回答割合%)



国立がん研究センター再受診した患者の転帰

平成22年7月12日から平成22年12月28日までの間に「がん相談対話外来」を利用し、その後、国立がん研究センターに再受診した133人の転帰（平成23年3月1日現在）について、当センターでの継続受診している者87人(65.4%)、最終的に前医に戻った者29人(21.8%)、前医以外の医療機関へ移った者13人(9.8%)であった(別紙4)。

図5. 再受診した患者の転帰 (%) (2011.3.1現在)



まとめ

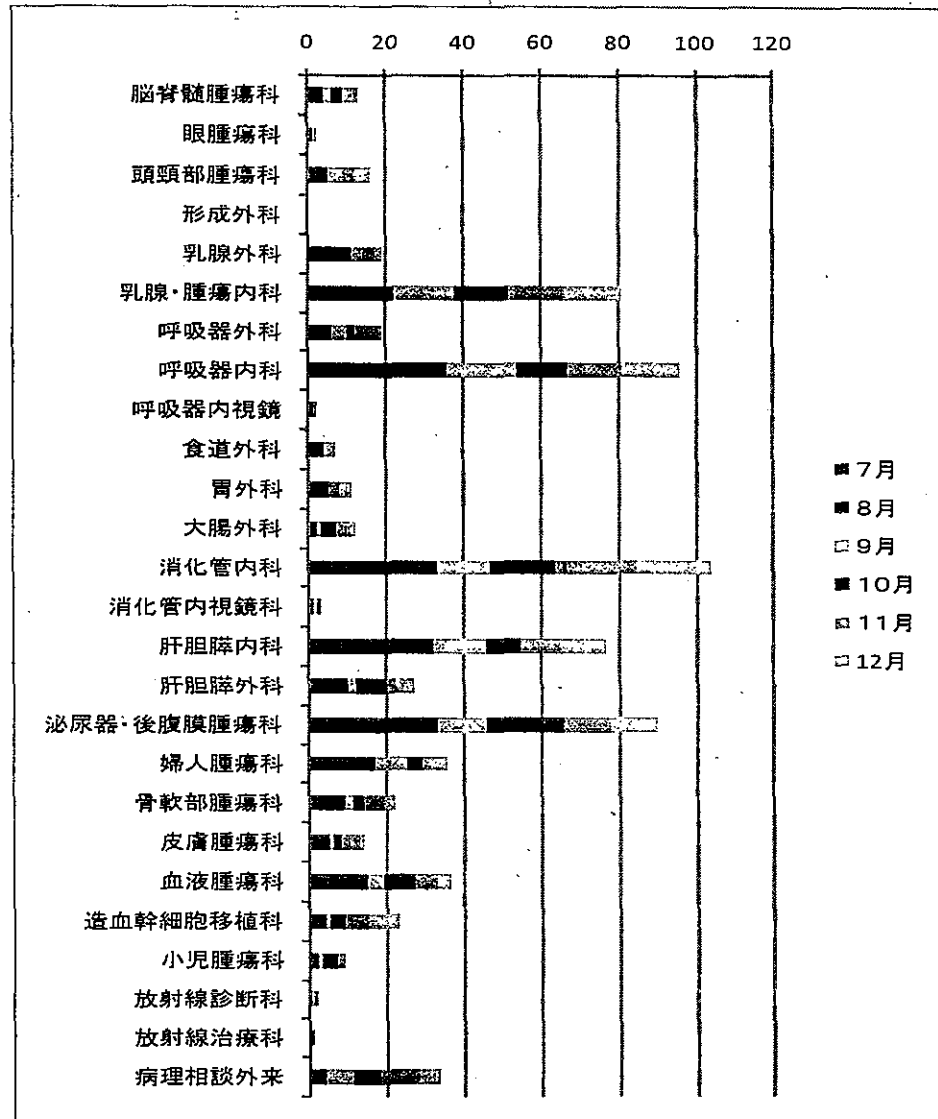
- ・「がん相談対話外来」利用後、88.4%の者が主治医に戻ったが、最終的には17.6%の者が、再度、国立がん研究センターを受診した。

- ・ 前医でできない診断や治療を当センターで受けることを目的として再診した者は、「がん相談対話外来」を利用した全体からみると3.0%であった(再受診した者のうち17.3%)。しかし、14.4%の者(再受診した者のうち82.0%)は、前医でもできる診断や治療であるが、患者の希望で再受診していた。
- ・ 当センターでの治療を希望して再受診した者のうち、外科療法を受けた者が40.4%と最も多かった。一方、最終的に当センターで治療を行わなかった者は30.3%であった。
- ・ 当センターを再受診した者の多く(65.4%)が、当センターを継続受診していた。しかし、21.8%の者が、最終的に前医に戻っていた。

(別紙1) がん相談対話外来 実施状況

がん相談対話外来件数調べ (2010.7.12-12.28)

	7/12- 7/31	8/1- 8/31	9/1- 9/30	10/1- 10/31	11/1- 11/30	12/1- 12/28	合計
脳脊髄腫瘍科	2	2	2	3	0	4	13
眼腫瘍科	0	0	0	1	0	1	2
頭頸部腫瘍科	2	3	4	0	3	4	16
形成外科	0	0	0	0	0	0	0
乳腺外科	1	10	3	0	3	2	19
乳腺・腫瘍内科	5	17	16	14	14	15	81
呼吸器外科	5	1	4	2	6	1	19
呼吸器内科	19	17	18	13	14	15	96
呼吸器内視鏡	0	0	0	1	1	0	2
食道外科	1	3	1	0	0	2	7
胃外科	2	1	0	2	3	3	11
大腸外科	0	2	1	4	4	1	12
消化管内科	14	19	14	17	21	19	104
消化管内視鏡科	0	1	1	1	0	0	3
肝胆膵内科	16	16	14	9	10	12	77
肝胆膵外科	6	4	2	8	2	5	27
泌尿器・後腹膜腫瘍科	18	15	13	20	12	12	90
婦人腫瘍科	11	6	8	4	1	6	36
骨軟部腫瘍科	4	5	2	3	5	3	22
皮膚腫瘍科	3	2	1	2	5	1	14
血液腫瘍科	5	10	4	8	6	4	37
造血幹細胞移植科	2	2	1	4	6	8	23
小児腫瘍科	2	0	1	4	2	0	9
放射線診断科	0	0	1	0	1	0	2
放射線治療科	0	0	0	0	1	0	1
病理相談外来	2	2	7	7	10	6	34
	120	138	118	127	130	124	757



(別紙2) がん相談対話外来 利用者の感想

がん相談対話外来を利用した患者・家族の方々に、終了後にアンケートの結果について (7月12日-12月28日)

利用者の満足度など	件数	%
目的の達成度「相談対話外来受診の目的は果たされましたか？」(N=627 件)		
十分に達成	386	61.6
ほぼ達成	235	37.5
不十分	5	0.8
全く達成なし	1	0.2
患者・家族の理解度「相談対話外来医師の説明は理解できましたか？」(N=625 件)		
十分に理解	474	75.8
ほぼ理解	149	23.8
理解不十分	2	0.3
全く理解なし	0	0
患者・家族の満足度「がん相談対話外来の満足度についてお聞かせください。」(N=623 件)		
とても満足	345	55.4
ほぼ満足	266	42.7
やや不満	12	1.9
全く不満	0	0

(別紙3) がん相談対話外来 利用後の状況

がん相談対話外来を利用した患者の方々の、利用後の状況について
(7月12日-12月28日)

がん相談対話外来利用後 再診の有無 (N=757)	人数	%	人数	%
対話外来のみの利用	624	82.4		
対話外来後再診	133	17.6		
			うち、対話外来時に受診予約	88 11.6
			うち、一度主治医へ戻った後に受診	45 5.9

対話外来後、再診があった患者 背景(N=133)		人数	%
年齢 (mean±SD)	58.2±15.0		
性別	男	76	57.1
	女	57	42.9
主な診療科	泌尿器・後腹膜腫瘍科	20	15.0
	肝胆膵内科	12	9.0
	乳腺外科	12	9.0
	消化管内科	11	8.3
	血液腫瘍科	9	6.8
	呼吸器外科	8	6.0
	大腸外科	7	5.3
	肝胆膵外科	7	5.3
	婦人腫瘍科	7	5.3
	皮膚腫瘍科	6	4.5
	乳腺・腫瘍内科	5	3.8
	食道外科	5	3.8
	呼吸器内科	4	3.0
	胃外科	4	3.0
	骨軟部腫瘍科	4	3.0
	造血幹細胞移植科	3	2.3
受診時進行度	疑い	26	19.6
	早期	59	44.4
	再発・進行期	45	33.8
	不明	3	2.3

(別紙4) がん相談対話外来 再診理由、治療内容

がん相談対話外来を利用した後、再診した患者の方々の理由と受けた治療内容について (7月12日-12月28日)

再受診した理由(N=133)	人数	%	人数	%	主な再診理由
前医ではできない診断・治療	23	17.3			
うち、診断			6	4.5	前医では生検がうまくできなかった 前医では原発巣の検索が不可能
うち、治療			15	11.3	前医では機能温存治療が不可能 前医ではできない化学療法だった
うち、治験への参加			2	1.5	
前医でも可能であるが、 患者の希望による診断・治療	109	82.0			
うち、診断			11	8.3	前医で診断されるも、再度の診断を希望 NCCなら良い診断が受けられるとの思い
うち、治療			94	70.7	前医では治療したくない NCCなら良い治療が受けられるとの思い 東京で治療を受けたい
うち、経過観察			4	3.0	NCCなら良い診断が受けられるとの思い
前医からのすすめ	1	0.8			

治療を希望した再診者の当センターでの治療内容(複数回答可)(N=109)	人数	%
手術	44	40.4
化学療法	29	26.6
放射線療法	15	13.8
治験	4	3.7
なし	33	30.3

再診者の転帰(2011年3月1日現在)(N=133)	人数	%
当センターで継続受診中	87	65.4
前医へ戻る	29	21.8
前医以外の医療機関へ転院	13	9.8
死亡	3	2.3
終診	1	0.8

(参考資料)

国立がん研究センター中央病院における患者数・死亡者数について

平成 22 年 1 月 1 日～平成 22 年 12 月 31 日

- ・年間新入院患者数 13,182 人
- ・年間新入院がん患者数 13,182 人
※年間新入院患者数に占めるがん患者の割合 100.0%

- ・年間院内死亡がん患者数 421 人

- ・年間外来のべがん患者延数 240,072 人

平成 21 年 1 月 1 日～平成 21 年 12 月 31 日

- ・年間新入院患者数 12,837 人
- ・年間新入院がん患者数 12,837 人
※年間新入院患者数に占めるがん患者の割合 100.0%

- ・年間院内死亡がん患者数 343 人

- ・年間外来のべがん患者延数 234,880 人